

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1)担当支部:	東九州支部	(2)記載者氏名:	飯田 勝之	会員番号:	10912	事務局整理記入欄	東九州 - 2
分水嶺区分	林道 ~ K045所小野山 ~ K048伏木峠	(3)山行日:	2005年	4月	9日	(4)天候	曇りのち晴

(5)参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

佐藤浩幸	6062				会友		
飯田勝之	10912				会友		
佐藤秀二	13141			遠江洋子	会友		
中野稔	13997						
計				4名			
計				3名			

(6)山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	3月27日に踏査したガラムキ峠の先の稜線から所小野山手前までの踏査の続きを、大将陣山を経て伏木峠までの間を踏査。												
アプローチ:	伏木峠の公民館前に2台車を駐車し、2台のRV車で日田市秋原町から花月川の源流に沿った林道へ乗り入れて、国見山山麓に駐車し、分水嶺をめざす。												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	林道三叉路	大行司	130	57	58.1	33	24	59.3	736	8:09		砂利道	
分水嶺到達点	稜線上	大行司	130	58	10.0	33	25	12.8	858	8:31		B-2	
K045	所小野山	大行司	130	58	18.6	33	25	2.7	915	8:53	9:23	B-2	
	900mピーク	大行司	130	58	28.2	33	24	59.7	902	9:30		B-2	
K046	大将陣山	大行司	130	58	51.3	33	24	38.1	912	10:19	10:53	B-1	
	815m	大行司	130	58	59.7	33	24	27.4	818	11:1		B-1	
	721m	大行司	130	59	5.0	33	24	2.2	722	11:29	12:38	B-2	
K047	576.1m	大行司	130	59	24.9	33	23	6.9	595	14:12	14:16	B-3	
分水嶺離別点	K048伏木峠	大行司山	130	59	39.5	33	22	54.3	437	14:57			
9歩行終了点	伏木峠												小学校校庭前
総歩行時間(休憩時間を除く):											6時間00分		

(7)三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コード を記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
K045	所小野山	4	正位置	完全	スギの風倒木の折り重なった下にあり。倒木を鋸で切断する。
K046	大将陣山	3	正位置	少し	2角が少し削られている
K047	576.1m	4	正位置	完全	真新しい三角点

(8)人工施設の現況および地形図との相違点

大将陣山の南側稜線は真新しい大規模な伐採・植林の跡が広がっていて、間近かに林道が開かれている。
721mピークの直下に無線アンテナとロボットの建物あり。
721mピークの南斜面の下部に広い牧野と畜舎群がある。

(9)水および植生に関連した特記事項

分水嶺の稜線は、当日の区間はほぼ全てのところスギまたはヒノキの造林地内である。所小野山東部のやせ尾根の数メートルは天然林が残っており、造林地は台風の影響による風倒木が随所であり、歩行に難渋するところが多い。

(10)その他の特記事項

(11)写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:
(1) 所小野山(K045)にて
(2) 576.1mピーク(K047)の4等三角点

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。

3月27日に悪天候のために目的地直前で中止した、所小野山下部の稜線に向けて、林道終点からとりつき開始。十数分で分水嶺上の稜線に出ると、ブッシュをかき分けて緩く登っていく。登り着いた所は南北に長い山頂の端で、そこが三角点の所在地であることは、数年前の支部の月例山行で確認済みである。

折り重なるように倒れたスギの風倒木の下に四等三角点がある。支部員が持参の鋸で倒れた二、三本の木をいくつかに切断し、取り除くと三角点の周りが広く開放された。三角点はほとんどいためつけられた跡はない。記念撮影(写真(1))の後縦走開始。

平らな山頂を少し南に向かって進むと、ほぼ直角に東に向かってスギの植林地を下るようになる。高度差40m余りを下りきると緩い登りとなり、次第に尾根がやせてくと天然林に変わる。両側が深くキレ落ちた馬の背状の稜線が続き、小さく下った後、急な登りで次のピークに着く。リュウブヤシラキ、カエデなどの低木林は、人工林ばかりの稜線歩きの中の一服の清涼剤である。

二つめのピークから再び南に進路を変えながら、天然林の急斜面をどんどん下ると再び人工林が目前に迫る。スギ林の中を緩いアップダウンを繰り返しながらさらに高度を下げると、やがてコンタ830mの鞍部を通過する。ここには地図上には波線の道があるが、現地では確認できない。

鞍部から緩い登りが始まり、何処までも続くかのような延々とスギ林の登りである。一旦鈍頂に登り着くと再び緩く下りとなる、下りきった平らなスギ林の中の稜線は方向確認が大変である。再び緩い登りで少し南にカーブしながら登っていくと、やがて前方が明るく開けて、カヤの中の大將陣山の頂きに着いた。

北側はスギの人工林で展望はないが、反対側は広いカヤ野で雄大な展望である。南は遠くには日田市街地が広がり、その背後に津江の山並みが続いている。東は一尺八寸山やその向こうの玖珠の山並みが望める。北は岳滅鬼山から英彦山に至る県境稜線が間近である。しばし展望を楽しんだら再び踏査縦走開始。ここから南は伏木峠の方からの登山ルートがあったが、山頂直下から南東側斜面は広い範囲にわたりスギやヒノキが伐採されて、植えられたばかりの苗木が続く斜面は、かつての登山ルートは不明である。地図を確認しながらひたすら分水嶺の稜線下りである。

伐採地が終わり、ヒノキの成木林の中に入ると815mの標高点のある地点だが、4等三角点等は見あたらない。いくつかの作業道を横切りながら稜線伝いに下っていくと傾斜が緩くなり、土地境界を示す古い土塁が分水嶺に沿って続いている。そしてやがて無線アンテナが現れて稜線は林の中から原野の中へと変わる。

この地点で昼食休憩をとり、あとは南下方に牧野と畜舎群を見ながらカヤ野のブッシュをかき分けて下っていく。2回アスファルト舗装の車道を横切り、赤松の点在する灌木林の稜線に踏み込む。そして再び車道に出て、前方の稜線にとりつく。スギの人工林の中は歩きやすいが、稜線に出ると猛烈なブッシュである。ブッシュを分けながら小ピークを二つ過ぎて小さく下ると荒れた林道を横切り、スギ林の中の登りとなる。登り切った平らな頂の真ん中あたりに、真新しい4等三角点があった(写真(2))。

ここから南西に向かってスギ林の中を下っていく。分水嶺と判明しにくい斜面で、磁石が頼りのルートファインディングである。やがて、車の音や犬の音が聞こえてくると、樹間に民家も見えてきて、程なく畑が目の前に開けて、遠くに学校が見えてきた。あとは学校に向かってゆったりと下っていけば、校庭の向こうは県道の走る伏木峠である。



(1) 所小野山(K045)にて



(2) 576.1mピーク(K047)の4等三角点